

●海外研究者招聘

年月日	招聘者	招聘目的
1994. 6.25～ 1994. 7.11	テキサス大学オースチン校 Dr. Michael C. Downer	T ³ レーザーの短パルス化の研究
1994. 6.28～ 1994. 7.14	テキサス大学オースチン校 Dr. Francois L. Waelbroeck	トカマクのプラズマ流による制御理論の研究
1994. 6.30～ 1994. 7.16	テキサス大学オースチン校 Prof. Claude W. Horton, Jr.	プラズマの乱流揺動に伴うエネルギー輸送とそれを低減するための制御理論の研究
1994. 7. 3～ 1994. 7.13	マサチューセッツ工科大学 Prof. Bruno Coppi	プラズマの安定性と制御の研究
1994. 7.15～ 1994. 9.15	バーミンガム大学 永田雅人博士	Rayleigh-Benard 対流における中立曲線外に存在する新しいクラスの研究
1994. 8.29～ 1994. 9. 3	アリゾナ大学 Prof. Henry Freiser	溶媒抽出及びイオン選択性電極の研究
1994. 8.30～ 1994. 9. 6	アイダホ大学 Prof. Chien M. Wai	アクチノイド、ランタノイド分離の新抽出試薬の合成研究
1994. 9. 1～ 1994. 9. 2	フロリダ州立大学 Prof. Gregory R. Choppin	「アクチノイド溶液化学・分離化学」ワークショップに参加
1994. 9. 1～ 1994. 9. 2	ベルナドスキー地球化学・分析化学研究所 Boris F. Myasoedov 副所長	「アクチノイド溶液化学・分離化学」ワークショップに参加
1994. 9. 1～ 1994. 9. 2	クルナコフ一般・無機化学研究所 Yurii A. Zolotov 所長	「アクチノイド溶液化学・分離化学」ワークショップに参加
1994. 9. 9～ 1994. 9.10	天津大学 Prof. Heng Zhou	「流体系における安定性と分岐」研究会に参加
1994. 9. 9～ 1994. 9.10	University of St. Andrews Prof. Alexander D. Craik	「流体系における安定性と分岐」研究会に参加
1994. 9. 9～ 1994. 9.10	Imperial College of Science Dr. Xuesong Wu	「流体系における安定性と分岐」研究会に参加
1994.10. 3～ 1994.10.29	エルランゲン大学 Dr. Stefan Michael Sieber	超リチウム化分子の NMR スペクトルの理論的予測の研究
1994.10.27～ 1994.12.20	ロスアラモス国立研究所 Dr. Peter Möller	条件付き核分裂障壁と質量分布の研究
1994.11.28～ 1994.12.28	バーミンガム大学 永田雅人博士	鉛直スロットにおける縮退を伴う 2:1 共鳴相互作用に関する解析的研究
1994.12.11～ 1994.12.24	韓国高等科学技術院 Prof. Duk-In Choi	高エネルギー高密度プラズマの制御に関する研究
1994.12.12～ 1994.12.28	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 Prof. Robert E. Kelly	成層せん断流における超縮退を伴う分岐の研究

●研究会等

年月日	開催内容
1994. 7. 6~7	荷電粒子多体系の物性と制御の研究 (第3回)
1994. 7. 8	中性子ラウエ法検討
1994. 7.25~26	タンデムブースターによる核分光国内共同実験
1994. 7.28	光ファイバーの量子計測への応用
1994. 7.29~30	イオンビーム植物遺伝子解析研究へのアプローチ
1994. 8.31~ 9. 1	生体物質構造解析研究の推進
1994. 9. 1~2	アクチノイド溶液化学・分離化学
1994. 9. 9~10	流体系における安定性と分岐
1994.11.30~12. 2	ハドロン多体系のシミュレーション
1994.12. 7~8	中性子回折法による生体物質の構造と機能の解明
1994.12. 9	極低温原子トンネル反応
1994.12.22	高強度超短パルスレーザーとその利用

●講演会

年月日	講演者	演題
1994. 9.14	ウィスコンシン大学マジソン校 Prof. Akif B. Balantekin	Subbarrier Fusion in IBM
1994.10.28	ハーンマイトナー研究所 Prof. Wolfram Von Oertzen	Study of Very Neutron Rich Isotopes of He (7-10), Li (9-11) and Be (12-14)

編集後記



インターネットによるメールや情報の恩恵を受けるとか、CD-ROMで安い米国製の百科事典を楽しむとか、いわゆる仕事としての計算やその出力等以外にもマイクロエレクトロニクスの恩恵を前にもまして受けている毎日ですが、気になることもあります。バーチャルリアリティーに代表されるようなその世界に子供の頃から浸かっていると、その世界でのキャラクターはその名とは違い力学の法則を無視した行動をしょっちゅうするので、この世の中の力学の法則に対する興味を持たないままに大人になってしまうのでは無いかという心配です。木から滑り落ちて痛熱い目に遭ったり、柱時計の振り子の周期的な運動をぼんやり見ていたり、布団の中で見る天井板の木目模様がいろいろに見え時には恐ろしかったり不思議だったり、とか昔は誰でも経験したバーチャルで無い経験が自然法則を理解したいという欲求の根っこにあるような気がします。勿論以上は古典力学の話で、非古典的な量子現象とか、更に多重宇宙論くらいまで行くと逆にバーチャルリアリティーの方が有利かもしれません。しかし古典力学のセンス無しには、量子現象を本当に理解できないのではないかと、思うのはもはや古典的な思考とみなされるのでしょうか？ (A. I.)